

ECLIPSE専用バックアイカメラ

BEC113

汎用(RCAタイプ)バックアイカメラ

BEC113G

取付説明書

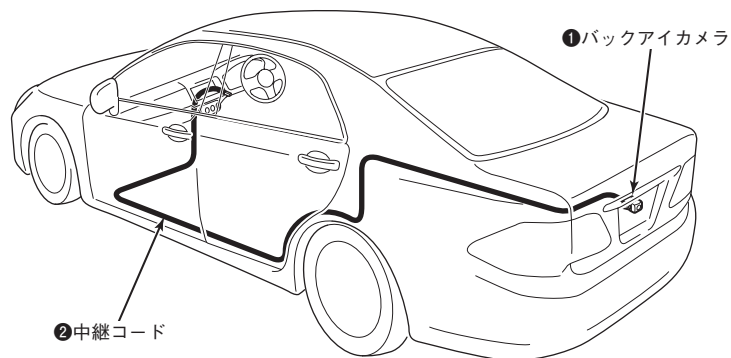
お客さまへのお願い

- 取り付けおよび接続を行う前に、必ずこの説明書をよくお読みのうえ、正しく作業を行ってください。
- 指定以外の取付方法や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。
- 本機の取り付けには、専門技術と経験が必要です。お買い上げの販売店での取り付けをお薦めします。
- 「取付説明書」をお読みにになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

一販売店様へ

取り付け、接続作業が完了しましたら、この取付説明書をお客様へお渡しください。

取付概要図



FUJITSU TEN

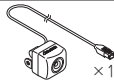


構成部品

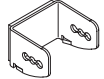
作業前に構成部品が揃っているか、汚れや傷がないか確認してください。

BEC113

●本体関係

1 バックアイカメラ  ×1	2 中継コード  ×1	
---	--	--

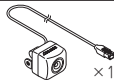
●取付用部品関係

3 U型ブラケット  ×1	4 小ねじ (M3×6)  ×2	5 コードレール  ×5
6 バンドクランプ  ×3	7 クランプ  ×3	8 ハーネス固定テープ  ×2
9 防水クッション  ×1	10 クリーナ  ×1	

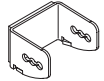
※その他の構成部品(取付説明書、保証書などの資料類)

BEC113G

●本体関係

1 バックアイカメラ  ×1	2 中継コード  ×1	
---	--	--

●取付用部品関係

3 U型ブラケット  ×1	4 小ねじ (M3×6)  ×2	5 コードレール  ×5
6 バンドクランプ  ×3	7 クランプ  ×3	8 ハーネス固定テープ  ×2
9 防水クッション  ×1	10 クリーナ  ×1	

※その他の構成部品(取付説明書、保証書などの資料類)

作業の進め方

- 1) 構成部品の確認
- 2) バッテリーの⊖端子を外す
- 3) 接続を確認する
- 4) バックアイカメラを取り付ける
- 5) 配線する
- 6) バッテリーの⊖端子を元に戻す

(☞構成部品)

(☞接続のしかた)

(☞バックアイカメラの視野角について)

(☞バックアイカメラの取り付けについて)

(☞バックアイカメラの角度調整について)

●安全に正しくお使いいただくために

お客様や他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の表示をしています。
その表示と内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

❗：しなければならないことを表しています。

⚠：注意をしなければならないことを表しています。

🚫：してはいけないことを表しています。

●本機取り付けのために必ず守っていただきたいこと、知っておくと便利なことを下記の表示で記載しています。

📖 アドバイス

この表示は、本機の故障や破損を防ぐために守っていただきたいこと、知っておくと便利なこと、知っておいていただきたい内容を示しています。

⚠ 警告

⚠ 本機は DC12V ○アース車専用です。
大型トラックや寒冷地仕様車のディーゼル車などの 24V 車での使用はできません。24V で使用すると火災の原因となります。

⚠ 車体に穴をあけて取り付ける場合は、注意して作業を行ってください。

車体に穴をあけて取り付ける場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認の上、これらと干渉や接触することがないよう注意して行ってください。また、加工部のサビ止めや浸水防止の処理を施して下さい。火災や感電の原因となります。

🚫 車体のボルトやナットを使用して機器の取り付けやアースを取る場合は、ステアリング、ブレーキ系統やタンクなどの保安部品のボルト、ナットは絶対に使用しないでください。

保安部品を使用しますと、制動不能や発火、事故の原因となります。

❗ 取り付け作業前には、必ずバッテリーのマイナス○端子をはずしてください。

プラス⓪とマイナス○経路のショートによる感電や怪我の原因となります。

🚫 本機を次のような場所には取り付けないでください。

本機を、前方の視界を妨げる場所や、ステアリング、シフトレバー、ブレーキペダルなどの運転操作を妨げる場所など運転に支障をきたす場所、同乗者に危険を及ぼす場所などには絶対に取り付けないでください。交通事故や怪我の原因となります。

❗ コード類は、運転操作の妨げとならないよう、テープ等でまとめて固定してください。

ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻きつくと事故の原因となり危険です。

🚫 電源コードの被覆を切って、他の機器の電源を取ることは絶対にしないでください。

電源コードの電流容量がオーバーし、火災や感電、故障の原因となります。

❗ 取り付けと配線が終わったら、ブレーキやライト、ホーン、ハザード、ウィンカーなどの電装品が元通り、正常に動作することを確認してください。

正常に動作しない状態で使用すると火災や感電、交通事故の原因となります。

❗ ドリル等で穴あけ作業をする場合は、ゴーグル等の目を保護するものを使用してください。

破片などが目に入ったりして怪我や失明の原因となります。

❗ 接続したコードや使用しないコードの先端など、被覆がない部分は絶縁性テープ等で絶縁してください。

ショートにより火災や感電、故障の原因となります。

🚫 カメラコードに傷をつけないでください。

傷の部分からカメラ内部に湿気や水分が浸入し火災や感電、故障の原因となることがあります。

🚫 本機を分解したり、改造しないでください。

事故、火災、感電の原因となります。

❗ ヒューズを交換するときは、必ず規定容量（アンペア数）のヒューズを使用してください。

規定容量を超えるヒューズを使用すると、火災や故障の原因となります。

❗ 必ず付属の部品を指定通り使用してください。

指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品を損傷したり、しっかりと固定できずに外れることがあり危険です。

❗ カメラやブラケットなどは、定期的に点検してください。

取付ねじが緩んでいないこと、貼り付けした部分が剥がれていないことを確認してください。取付ねじの緩みがある場合は、増し締めをしてください。カメラが外れて落下し、歩行者等に接触したり、事故の原因となります。

❗ 取付説明書で指定された通りに接続してください。

正規の接続を行わないと、火災や事故の原因となることがあります。

🚫 エアバッグの動作を妨げる場所には、絶対に本機の取り付けと配線をしないでください。

車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。エアバッグ動作を妨げる場所に取り付け・配線すると誤作動を起こしたり、交通事故の際、エアバッグシステムが正常に動作しないため、怪我の原因となります。

⚠ 車体のねじ部分、シートレール等の可動部にコード類をはさみ込まないように配線してください。

断線やショートにより、事故や感電、火災の原因となることがあります。

❗ 他社モニターと本機を組み合わせる場合は、他社接続機器メーカーが指示している警告・注意事項等を厳守してください。

正常に動作しなかったり、事故の原因となります。

⚠ 注意

❗ 本機の取り付け・配線には、専門技術と経験が必要です。

安全のため必ずお買い上げの販売店に依頼してください。誤った取り付けや配線をした場合、車に重大な支障をきたす場合があります。

🚫 しっかりと固定できないところや振動の多いところへの取り付けは避けてください。

両面テープで取り付けの場合は、取り付け場所の汚れやワックスを綺麗に拭き取って下さい。きれいに拭き取らないと、走行時の振動で機器が外れて運転の妨げとなり交通事故や怪我の原因となることがあります。

❗ 本機は、車幅からはみ出さない場所、または、車の前後からはみ出さない場所を選んで取り付けてください。

歩行者などに接触して思わぬ事故の原因となることがあります。

🚫 カメラをガラス面に貼り付けしないで下さい。

カメラが外れて落下し、歩行者に接触したり、事故の原因となることがあります。

❗ コードが金属部に触れないように配線してください。

金属部に接触しコードが破損して火災、感電の原因となることがあります。

❗ コードの配線は、高温部を避けて行ってください。

コード類が車体の高温部に接触すると被覆が溶けてショートし、火災、感電の原因となることがあります。

⚠ コード等の車内への引き込みは、十分注意してください。
雨、水の車内への浸入を防ぐためコード等の車内への引き込みには十分気をつけて作業を行ってください。車内に浸水すると、火災や感電の原因となることがあります。

❗ 本機の取付場所変更時は安全のため必ずお買い上げの販売店へ依頼してください。

取り外し、取り付けには専門技術が必要です。

🚫 コード類を決して途中で切断しないでください。

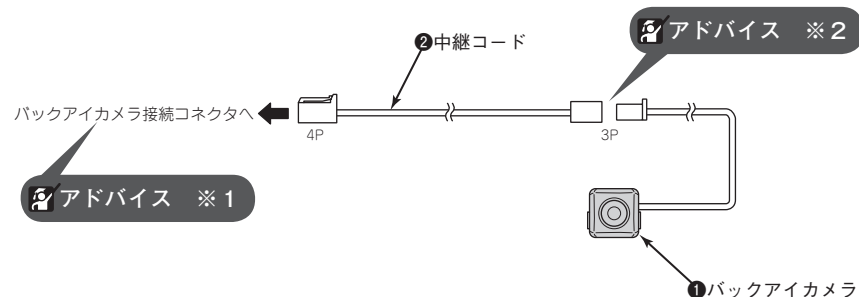
コード類には、ヒューズなどが付いている場合があるので、保護回路が働かなくなり、火災の原因となることがあります。

🚫 電源用リード線をバッテリーに直接接続しないでください。

車の振動や熱でコードの被覆が破れ、ショートして火災や感電の原因となることがあります。

●接続のしかた

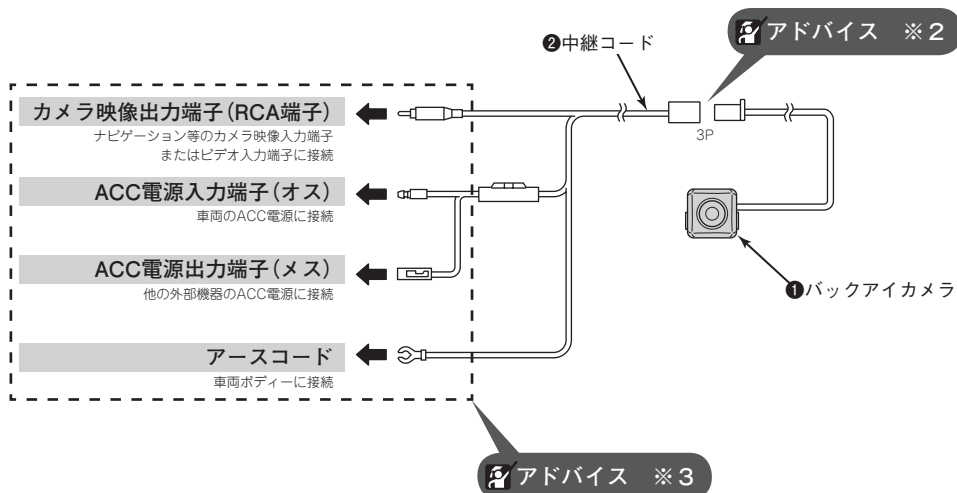
BEC113



アドバイス

- ※1 当社AVNまたは別売りカメラ接続用電源BOXのバックアイカメラ接続コネクタに接続してください。コードの接続は、必ず当社AVNまたは別売りカメラ接続用電源BOXの取付説明書をご確認の上、行ってください。
- ※2 コードの長さが不足する場合は、別売のバックアイカメラ用延長コードを使用してください。

BEC113G

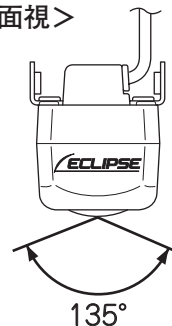


アドバイス

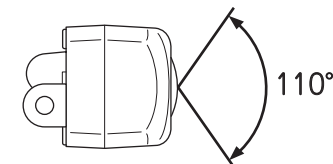
- ※2 コードの長さが不足する場合は、別売のバックアイカメラ用延長コードを使用してください。
- ※3 各コードの接続は、必ず取り付けるナビゲーション等の取付説明書をご確認の上、行ってください。

●バックアイカメラの視野角について

<上面視>



<側面視>



●バックアイカメラの取付位置について

<車両上方から見た図>

図 A

■車両とバックアイカメラを平行に取り付けた場合

(バックアイカメラのレンズ面が車両の真後ろに向くように取り付けた場合)

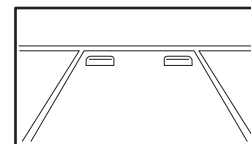
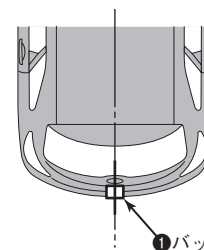
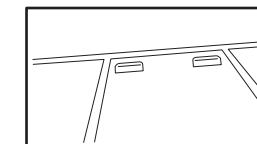
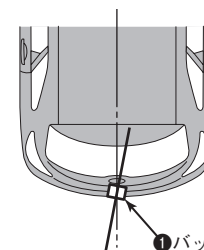


図 B

■バックアイカメラを車両に対して傾いて取り付けた場合



<カメラ画像>
(イメージ)

アドバイス

- 図Aのように車両と平行になるように取り付けてください。
- 図Bのように車両に対して傾いて取り付けたと画像が傾きます。

●バックアイカメラ取り付け後の注意事項

⚠ 警告

- ❶ カメラによって映し出される映像だけを見ながら後退運転することは絶対にしないでください。
必ず目視による安全確認をしながら後退してください。カメラの死角になっている人や物にぶつかる恐れがあり、思わぬ事故の原因となります。
- ❷ ゆっくりした速度で後退運転してください。
カメラの映像は広角レンズを使用しています。実際の距離と感覚が異なるので、速度を上げての後退は人や物にぶつかる恐れがあり、思わぬ事故の原因となります。
- ❸ 機器内部に水や異物を入れないでください。
発煙や発火、感電の原因となります。
- ❹ 画面が出ない、音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。
そのまま使用すると、事故、火災、感電の原因となります。
- ❺ 万一、異物が入った、水がかかった、煙が出る、変な匂いがするなどの異常が起きた場合は、直ちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店に相談してください。
そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となります。
- ❻ ピニール袋をかぶらないでください。
大きな事故や窒息死の原因となります。

⚠ 注意

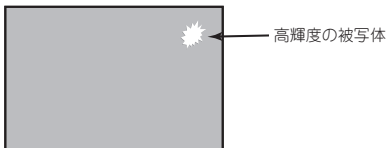
- ❶ カメラを水に浸したり、自動洗車機（高水圧）による洗車は避けてください。
カメラ内部に水が入ったり、また、カメラが脱落したりして、思わぬ事故の原因となります。
- ❷ 本機を車載用として以外は使用しないでください。
発煙や発火、感電や怪我の原因となることがあります。
- ⚠ カメラの映像はバックミラーやサイドミラーで見ると同じ左右反転させた映像です。
車種により見え方が異なります。十分にご注意ください。
- ❸ 万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- ❹ バックアイカメラ本体及びレンズ部分、ブラケット、カメラコードをアルコール、ベンジン、シンナー、ガソリン等揮発性の薬品類で拭かないでください。
変形や変質、破損の原因になります。
- ❺ カメラ部を強くたたいたり、物をぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。
バックアイカメラの故障や破損の原因になります。

ー使用方法についてー

- バックアイカメラを過信しないでください。
- バックアイカメラは、障害物の確認のための補助手段として使用してください。
- 雨滴などがレンズ部に付着すると、映りが悪くなる恐れがあります。
- 自車状況(乗車人数・積載量)により、画面に映し出される位置が変化します。
必ず後方及び周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- カメラレンズの特性により、画像に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。

ー取扱いについてー

- カメラレンズへの直火やドライヤー、熱湯での急激な温度変化を与えると、故障や破損の原因になります。
- 太陽光を直接長時間撮像しないでください。焼き付け現象が残ることがあります。
- 車両後方画像を表示させた瞬間は、一旦白画像(接続する機種により異なります)になりますが、その後次第に安定します。
- 長時間使用した場合、温度上昇により白キズや縦線が出ますが、カメラ素子の特性によるものです。
- 50Hz電源地域の蛍光灯下では、画像のちらつき(フリッカー現象)が起こりますが故障ではありません。
- 磨き砂等が配合された洗剤で拭かないでください。キズの原因になります。
- レンズ部分が汚れている場合は、水を含ませた柔らかい布などで軽く拭いてください。乾いた布で強くこするとキズの原因になります。
- カメラやブラケットなどは、定期的に点検してください。取付ねじの緩みや貼り付けした部分が剥がれていないことを確認してください。取付ねじの緩みがある場合は、増し締めをしてください。カメラが外れて落下し、歩行者等に接触したり、事故の原因となることがあります。
- 太陽光やヘッドライトなどの高輝度の被写体がカメラに映ると、映像素子特有のブルーミング現象(※)が発生したり、その光源中心部分が黒く映ることがありますが、カメラの異常ではありません。



(※) ブルーミング現象：高輝度の被写体（太陽やヘッドライトなど）がカメラに映ると、光周辺に白飽和が発生する。

●「道路運送車両の保安基準」について



注意

国土交通省の定める保安基準に適合させるため、取り付ける際は、図の例にしたがって取り付けてください。正しく取り付けないと、「道路運送車両の保安基準 第18条」に適合しなくなるおそれがあります。

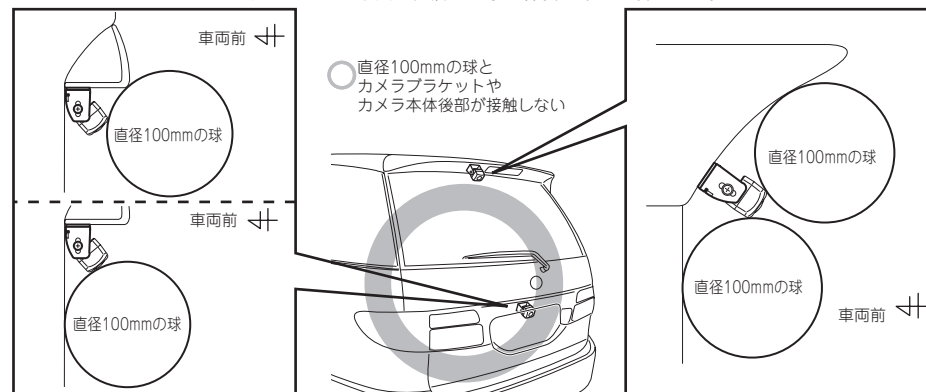
- 保安基準は改正されることがあります。本節では、平成24年7月26日現在の保安基準に基づいて記載しています。
- 保安基準についての詳細は、国土交通省のホームページ内、「道路運送車両の保安基準」を参照してください。

ー規制対象となる車両ー

- 平成21年1月1日以降に製造された乗用車。
※平成21年1月1日以降に製造された車両であっても、商用車の場合や、2m以上の高さに取り付ける場合など、規制対象外となる場合があります。
詳細は、国土交通省のホームページ内、「道路運送車両の保安基準」を参照してください。

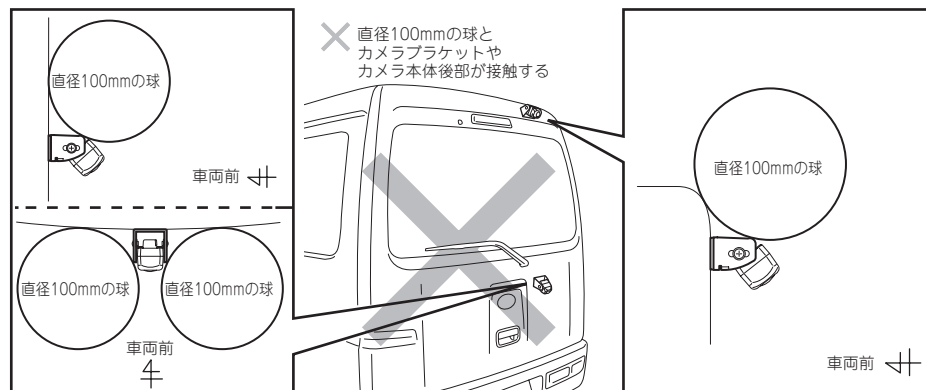
■ 保安基準に適合する取り付け例

カメラブラケットやカメラ本体後部が直径100mmの球と接触しないように、リヤスポイラーやリヤガーニッシュなどの下面に装着する事で保安基準に適合します。



■ 保安基準に適合しない取り付け例

カメラブラケットやカメラ本体後部が直径100mmの球と接触すると保安基準に適合しません。



●バックアイカメラの取り付けについて

アドバイス

一取り付ける前ー

- 湿気が多い時は、室外での取り付けはしないでください。
(粘着力が弱くなり、走行中にはがれる危険性があります)
- 必ず組み合わせる機器の取付説明書もよくお確かめの上、取り付けてください。

一取り付け作業時ー

- 取り付け後、走行してもさしつかえありませんが、24時間は絶対に水をかけたり、雨にあてたり、引っ張る等無理な力を加えないで自然放置してください。
- 気温が低い(20℃以下)と両面テープの粘着力が弱まります。ドライヤー等を使用し、粘着面を暖めてから貼り付けてください。バックアイカメラ本体やレンズ部分には、ドライヤー等を使用しないでください。

1 バックアイカメラの取付位置を決める。



注意

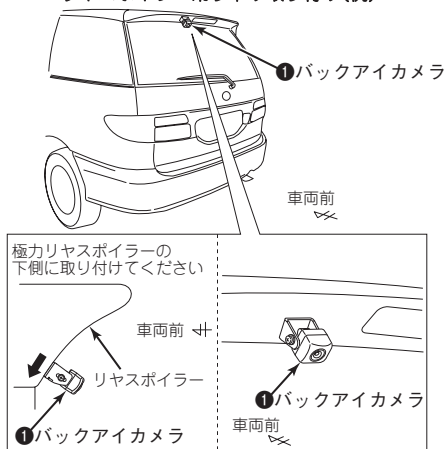
国土交通省の定める保安基準に適合させるため、取り付けときは、図のように取り付けてください。正しく取り付けないと、「道路運送車両の保安基準」に適合しなくなるおそれがあります。

アドバイス

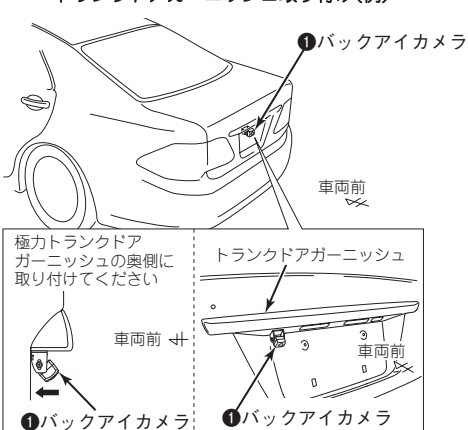
バックアイカメラの取付位置を決める際、以下の事項に注意してください。

- バックアイカメラをテープ等で仮止めし、角度を調節して、車両後端が確認できる位置に取り付けてください。一度取り付けて貼り直すと両面テープの粘着力が弱くなります。
- バックアイカメラは、ハイマウントストップランプなどの光がカメラレンズに入らない位置に取り付けてください。
- バックドア開閉時にバックアイカメラ及びコードが車両と干渉しないようにあらかじめ取付位置を確認してください。
- 両面テープのハクリ紙は、まだはがさないでください。

ーリヤスポイラー吊り下げ取り付け(例)ー



ートランクドアガーニッシュ取り付け(例)ー



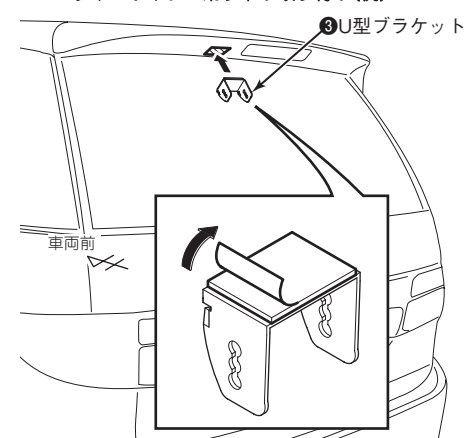
2 ブラケットを貼り付ける。

- ① U型ブラケットを貼り付ける部分の汚れ、水分、油分等を付属のクリーナ(布)できれいにふき取る。
- ② U型ブラケットの両面テープのハクリ紙をはがし、リヤスポイラーの平らな面へ取り付ける。

アドバイス

- 貼り付けた後は、確実に密着するようブラケットを十分押し付けてください。
- 気温が低い(20℃以下)と両面テープの粘着力が弱まります。ドライヤー等を使用し、粘着面を暖めてから貼り付けてください。
- バックアイカメラ本体やレンズ部分には、ドライヤー等を使用しないでください。

ーリヤスポイラー吊り下げ取り付け(例)ー



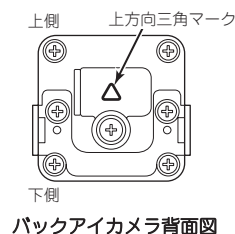
3 バックアイカメラをブラケットに取り付ける。

アドバイス

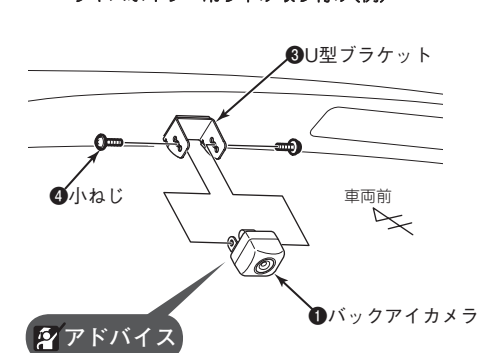
(ECLIPSE)ロゴの印刷面が上になるように取り付けてください。

<参考>

バックアイカメラの背面に上方向を示す刻印があります。三角マークが上方向に向くように取り付けてください。



ーリヤスポイラー吊り下げ取り付け(例)ー



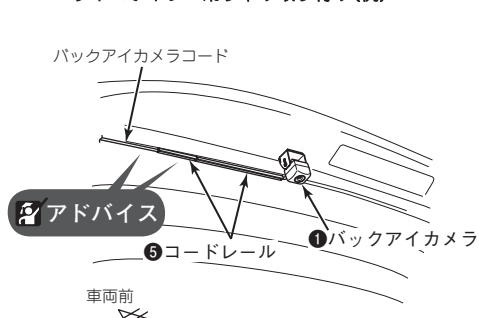
4 バックアイカメラコードを車室内に引き込む。

- ① バックアイカメラコードをコードレールで固定しながらバックドア内側まで引き込む。

アドバイス

- コードレールは、適当な長さに切って使用してください。
- 車室外でコードレールを使用する際は、国土交通省の定める保安基準に適合させるため、必ず同梱のコードレールを使用してください。

ーリヤスポイラー吊り下げ取り付け(例)ー



5 バックアイカメラコードを配線し、車室内に引き込む。

- ① バックアイカメラコードをコードレール、バンドクランプ及びクランプで固定しながら配線する。

アドバイス

- コードレールは、適当な長さに切って使用してください。
- バックドアを開閉したとき、バックアイカメラコードが引っ張られたり、クランプおよびバンドクランプが外れないことを確認してください。

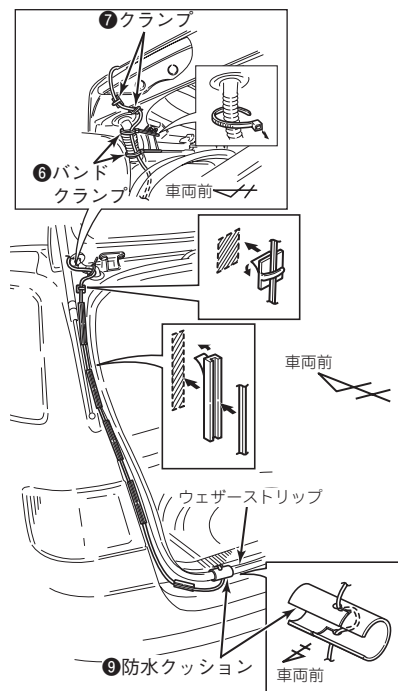


注意

- クランプは車室外に使用しないでください。車室外で使用すると、国土交通省の定める保安基準に適合しなくなる場合があります。
- 雨水等の侵入を防ぐためトランク部分のコード引き回しには十分注意してください。

- ② バックアイカメラコードを防水クッションのスリット部に挿入する。
③ 防水クッションをウェザーストリップに巻き付けるように取り付ける。

ーリヤスポイラー吊り下げ取り付け(例)ー



6 バックアイカメラコードを配線する。

- ① バックアイカメラコードをハーネス固定テープで固定しながら配線する。
② バックアイカメラコードを引き込むためにラゲージフィニッシュプレートをカットする。

アドバイス

- ラゲージフィニッシュプレート切り欠き位置裏側にリブ等が無いことを確認してください。

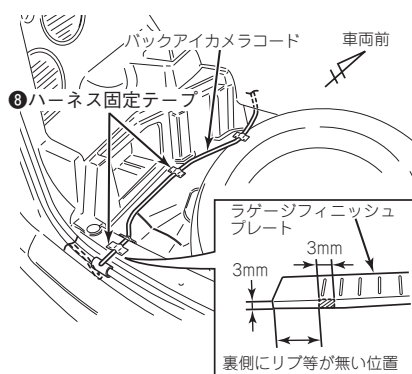


注意

- 雨水等の侵入を防ぐためトランク部分のコード引き回しには十分注意してください。

- ③ バックアイカメラコードをメインユニット取付位置まで配線する。

ーリヤスポイラー吊り下げ取り付け(例)ー



●バックアイカメラ角度調整について



注意

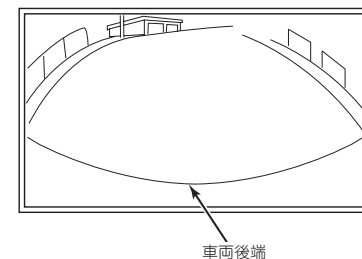
バックアイカメラを映し出す際は、車が動かないようサイドブレーキを引き、車輪止めを必ず行ってください。思わぬ事故の原因となります。

1 バックアイカメラをモニターに接続する。

- ① バックアイカメラコードをモニターに接続後、バッテリーにケーブルを接続する。

2 車両のシフトレバーをリバース(後退)位置にする。

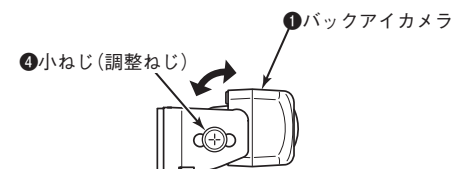
- ① シフトレバーをRレンジにし、車両後方映像を表示させる。



3 バックアイカメラの角度調整をする。

- ① 車両後端部(リヤガラス、リヤドア、リヤバンパー等)が図のようにモニターの画像下に表示されるよう調整ねじを緩め、カメラの角度を調整する。

ー角度調整ー



4 バックアイカメラを固定する。

- ① 角度調整後、調整ねじをしっかり締め付ける。この際、ブラケットの調整ねじはお好みの位置で固定してください。

アドバイス

- バックアイカメラを前後調整する際、調整ねじを取り外してください。調整ねじを取り付けたままでは、調整できません。
- バックアイカメラの角度調整の際、コードが突っ張らないように注意してください。
- 調整ねじは時々点検し、緩みがある場合は増し締めをしてください。

ー前後調整ー

